

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 6 日現在

機関番号：24301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24720046

研究課題名(和文) 17世紀オランダの「制作論」に関する包括的研究

研究課題名(英文) Survey of 17th century Dutch art theory with the focus on the making of painting

## 研究代表者

深谷 訓子 (Fukaya, Michiko)

京都市立芸術大学・美術学部・准教授

研究者番号：30433379

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：オランダ17世紀絵画の研究は、近年とりわけその解釈と受容を中心に発展を遂げてきた。だがその背景には、質量ともに充実した実制作が存在していたことは言うまでもない。そこで本研究では、ファン・マンデル、ファン・ホーホストラーテンなどによる絵画論のみならず、実践的な性格の強いファン・デ・パッセの著作なども読解し、それらのなかで、制作のプロセスが如何に語られているかということを検討した。特に明らかになったのは、写実性と結びつけて考えられることの多いオランダ絵画の制作プロセスにおいて、写生と記憶や構想にもとづく制作が如何なる関係にあるものとみなされていたのかということ、さらに、裸体素描の実践の様相である。

研究成果の概要(英文)：In the research of 17th century Dutch painting, emphasis has been put on the aspects such as its reception and interpretation. On the other hand, the creating process of works, which provides the starting point in every sense, has not been discussed often enough except for the cases of famous artists. This research focuses on how those creative processes have been treated in the discourse of Dutch art theory, examining not only the texts by Karel van Mander, Philips Angel and Samuel van Hoogstraten, but also including the more practical manuals by Chrispijn van de Passe and so on. Among other things, two aspects have been elucidated. First, it turns out that the practice of drawing after a nude model was being introduced and prevailed during the 17th century in the northern Netherlands. Secondly, the relationships between drawing "after the life" and making from memory, how they are connected in the discourse, have been brought to light.

研究分野：西洋美術史

キーワード：オランダ17世紀絵画 絵画論 制作論 芸術理論 裸体素描 写生

### 1. 研究開始当初の背景

17世紀オランダは、その豊富な実作例に比して、美術理論書の数には乏しかった時代といわれてきた。そのなかで、かねてより主要な文献として注目されてきたのが、カーレル・ファン・マンデルの『画家の書』(1604年)、フィリップス・アンゲル『絵画芸術礼賛』(1642年)、サミュエル・ファン・ホーホストラテン『絵画芸術の高き学堂への手引き』(1678年)、さらに18世紀に入るが、アーノルト・ハウブラーケン『ネーデルラントの画家及び女性画家の大劇場』などである。1990年代から2000年代にかけて、これらオランダ17世紀の美術文献に関する研究は、著しい進展をみせたといえる。

一方で、(個別のテキスト研究の進展さえもが近年の事象であることを思えば当然のことながら)これらの諸著作を横断的に分析し、比較検討するという作業は未だほとんどなされていない。さらに、17世紀オランダでは、実制作とより密接に結びついた「手引書」の類も刊行されていた。例えばクリスピン・ファン・デ・パッセの『素描及び絵画芸術の光』(1643年)や、ウィレム・フーレーの『素描芸術全般への手引き』(1668年)などである。これらの著作は、制作に向かう若者に対する教材であったり、一般の愛好家に向けて画家の工房内の制作プロセスの一部を紹介するものだったりする。こうした制作の舞台裏の「公開」は17世紀に見られる興味深い現象のひとつであるにもかかわらず、こうしたマニュアル的性格を有する文献と、正統の美術理論書と目されてきたテキスト群との比較検討も不十分な状況である。だが制作論のなかには、見るべき内容がいまだ多く残されている。加えて、受容や解釈という側面が圧倒的に重視されている現在の17世紀オランダ絵画研究の現状に鑑みて、再度「制作」に立ち戻り、「制作論」と実作品との比較検討を行うことが、この当時の絵画のよりバランスの取れた理解に結びつくのではないと思われる。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、オランダ17世紀の美術文献において表明された「制作論」を網羅的に収集し、それらのテキストの分析を行うことで、オランダ17世紀美術の「制作論」の全貌を得ること、さらにそうした制作論と実作品の比較検討を通じて、オランダ17世紀絵画に関する理解を深めることにある。同時にこの研究は、圧倒的に「受容」と「解釈」の側面が重視されている今日のオランダ絵画研究に、再度(理論に立脚した)「制作」の側からの視点を提供することで、新たな切り口をもたらすことを試みるものでもある。

### 3. 研究の方法

研究計画は(1)テキスト分析と、(2)制作論と実作品との比較考察の二部に分か

れる。

(1)まず、ファン・マンデル『画家の書』、アンゲル『絵画芸術礼賛』、ファン・ホーホストラテン『絵画芸術の高き学堂への手引き』、ハウブラーケン『大劇場』などの著作を通読し、制作過程やアトリエの具体的な状況などについて論じている部分を抜粋して、分析、考察する。さらに、ファン・デ・パッセやフーレーなどの、画家の工房内での学習や教育に関わる具体的なテキストを検討する。そのうえで、そうした抜粋部分の情報を改めて吟味し、分析を行う。また分析の過程で、幾つかの項目にテキストを分類する(例えば、「写生」、「模写」、「記憶」、「屋外制作」、「色彩」、「版画の利用」など)。

(2)制作論で浮彫りになった制作過程の諸側面を、絵画に表されたアトリエ内部の様子などの制作現場や、制作論で推奨されている特徴を備えた(あるいはそれと反対の)絵画作品を、制作論とのかかわりから考察し、制作論と実際の制作との関連性について具体的像を得る。

### 4. 研究成果

当初の計画に基づき、まずファン・マンデル、アンゲル、ファン・ホーホストラテン、ファン・デ・パッセ、フーレーらの著作を読み進め、重点検討項目を設定した。俎上に挙げたなかでも一定の成果を挙げることができたのは、以下の4点についてである。

#### (1) 工房内の素描教育について

クリスピン・ファン・デ・パッセやブルーマルトの線描帖ならびにそのテキストを詳細に検討し、17世紀オランダにおける素描教育の過程のなかでも、とりわけ手本(素描や版画)に基づく段階がどのように言説化されているかを明らかにした。さらに、ファン・デ・パッセならびにブルーマルトの線描帖に収められた版画を、ブルーマルトの弟子たちが実際にどの程度、どのように活用したのかという実情についても検討し、それらが南ネーデルラントで行われていたように、大規模な祭壇画制作時に脇役となる登場人物を描くための補助手段として用いられたほか、工房を巣立って風景画家などとして活躍していった画家たちが後年自作に描きこむ添景人物などに、ブルーマルトの素描に基づくと思われる人物像などが活かされていることが確認された。

同時に明らかになってきたのが、オランダに関してはまさに17世紀が、教育・修業過程における裸体素描(ヌードデッサン)という実践の導入期であったという事実である。裸体素描の最初期の例としては、ハールレム・アカデミーと名づけられた、ファン・マンデル、ホルツィウス、コルネリス・ファン・ハールレムによる女性デッサンの実践が着目されてきたが、これはあくまでも既に独立した親方となった作家たちによる営みであった。一方で、ファン・デ・パッセがその実

際の様子や成立の背景をよく伝えてくれているように、ユトレヒトにおいては、複数の親方たちが共同で、徒弟たちに裸体モデルのデッサンを行わせる機会を設けていたことが分かる。そこに述べられた、モデルのポーズの設定にかんする具体的な内容や、冬の夜を無駄にしないようにイタリアの慣例に倣って行っているという記述などから、これが彼らにとってまだ目新しい習慣であったことが窺えるのである。さらにファン・ホーホストラテンは、こうした裸体デッサンをすることができる場所というのは、いつでも手に入るわけではないと述べ、17世紀の後半に入っても、定期的な裸体素描の場は確保されていなかったことが窺える。一方でハウプラーケンは、定期的にそうした場をもったアムステルダム画家を紹介し、そこには熱意ある他の画家たちも含めて20人ほどのメンバーが集まり、その会合は長く続けられたということを語っている。レンブラント工房における実践もよく知られている通りである。ここにすべてを挙げることはできないが、こうした証言の数々をたどることにより、17世紀の間に徐々にこの慣習が一般化し、浸透していったことが明確に跡付けられた。

#### (2) 写生と記憶に基づく制作について

オランダ17世紀絵画に関しては、その写実性の高さが指摘されるが、では実際のところ制作論において「写生」は如何に論じられ、それが記憶や構想に基づく制作のように、モチーフを眼前にしないプロセスとどのような関係性において捉えられていたのかをファン・マンデル、ファン・ホーホストラテン、フーレーらの著作から浮き彫りにした。彼らの論考においては、やはり人物を登場させる歴史画がその主要な対象となっていることもあり、写生という実践は、単なる記録的なプロセスというよりも、事物の本質を作家の内部に取り込むというより複雑で高度な心的プロセスのひとつとしてとらえられていることが明らかとなった。また、こうした考察の過程で、写生の対象となったモチーフの種類や傾向、写生の際の描画材料の使い分けなど、当時の制作をより具体的に知るための手がかりも得ることができ、それらは『西洋美術研究』に発表した論文にとりまとめた。

#### (3) 演劇と絵画の連動性について

物語の演出法、場の組み立て、語りの技法ということは、画家たちにとっても、また演劇に携わる人々にとっても関心事となる事項である。17世紀オランダにおいて、絵画について語る語り口のなかにも、演劇上の慣習は入り込んできていたものと思われる。例えばアンゲルは、レンブラントやリーフェンスによる《バテシバ》を称えて、老婆が手紙を運ぶという「実際によく眼にされる」細部の導入を評価する。しかし17世紀オランダの風俗画において老婆が手紙を運ぶという設定はむしろ少なく、アンゲルが述べるような

設定は、演劇において通例目にされるキャスティングだったことが窺われる。そうした観点から、「キモンとペロー」という特定の物語の表現上の力点の変遷を、当時の詩論・演劇論における関心事と照らし合わせて作品考察を行った。そこで問題となったのは、「ペリペテイア」という契機である。実証にはなお課題を残す点もあるが、スカリゲル、ヘインシウスらによる作劇術なども検討することにより、演劇と絵画に共通する語りの手法について一定の知見を得ることができた。

#### (4) 原典資料の訳出・注解

オランダ17世紀美術の研究に際しては、最重要の古典的テキストが未だ邦訳されていないのみならず、ものによっては英訳すらもないものも存在する。そこで、他の研究者と共編訳でファン・マンデルの『北方画家列伝』部分の翻訳・注解にあたり、さらにファン・マンデルが用いる美術関連の用語や評言について、解説論文を執筆した。また、ファン・ホーホストラテンの翻訳作業も進め（これは続行中で未刊行）、さらにファン・マンデルの「イタリア画家列伝」のうち、ヴァザーリの抄訳を離れ、ファン・マンデル独自の情報を用いた記述からなる部分を訳出した。当該部分はオランダ17世紀のテキストを除けば入手しづらいイタリア語訳があるのみだが、カラヴァッジョに関する最初の伝記的言及などが見られる点なども極めて興味深い。これらの翻訳・注解は、論文とは呼び難い地道な作業ではあるが、今後にかすための基礎作業としての性質を持つものとして一定の時間をこうした基礎作業に費やした。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

(1) 深谷訓子、「原典資料研究 カーレル・ファン・マンデル「イタリア画家列伝」：ヴァザーリ以降の画家たちの伝記(2)」、『京都市立芸術大学美術学部研究紀要』60号(2016)、19-32頁(査読無)

(2) Michiko Fukaya, “Dutch Painters in Roman Churches in the Early Seventeenth Century: The Entombment of Christ by Dirck van Baburen in the Context of Patronage,” in: *Sacred and Profane in Early Modern Art: Proceedings of Kyoto Art History Colloquium*, 2015, pp. 105-126.

(3) 深谷訓子、「ファン・マンデル『北方画家列伝』とネーデルラント美術史における時代認識」、『平成23年度～平成26年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書(課題番号 23320032)美術史における転換期の諸相、研究代表者：京都大学大学院・文学研究科・教授・根立研介』、2015年3月、113

- 132 頁 ( 査読無 )

(4) 深谷訓子、「原典資料研究 カーレル・ファン・マンデル「イタリア画家列伝」：ヴァザーリ以降の画家たちの伝記(1)」『京都市立芸術大学美術学部研究紀要』59号(2015) 19 - 32 頁 ( 査読無 )

(5) Michiko Fukaya, “Aristotelian Peripeteia? The Backward Gaze in Depictions of Cimon and Pero in the Early Seventeenth-Century Netherlands”, in: *Aspects of Narrative in Art History: Proceedings of the International Workshop for Young Researchers*, 2014, pp. 47-60.

(6) 深谷訓子、「ネーデルラントの絵画論に見る「記憶」制作過程におけるその役割」『西洋美術研究』第 17 号、2013 年 11 月、67-90 頁 ( 査読有 )

(7) 深谷訓子、「ブルーマールの素描に基づいて 工房の内と外におけるその活用」、『平成 21 年度～平成 24 年度科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究成果報告書 ( 課題番号 21320028 ) 芸術家と工房の内と外 : 学習・共同制作・競争の諸相、研究代表者 : 京都大学大学院・文学研究科・教授・中村俊春』、2013 年 3 月、59-93 頁 ( 査読無 )

〔学会発表〕( 計 3 件 )

( 1 ) Michiko Fukaya, “Dutch Painters in Spanish Rome: Their Network Creation and the possibility of a new methodology”, *Methodik zwischen Theorie und Praxis. Historische und aktuelle Ansätze in der Niederländischen Kunst- und Kulturgeschichte; Internationale Konferenz des Arbeitskreises Niederländische Kunst- und Kulturgeschichte*, 2-4 October, 2015

( 2 ) Michiko Fukaya, “Dutch Painters in Roman Churches in the Early Seventeenth Century”, *Kyoto Art History Colloquium: Sacred and Profane in Early Modern Art at Kyoto University*, 4 October, 2014.

( 3 ) Michiko Fukaya, “Aristotelian Peripety? Creating Tension in the Representation of Cimon and Pero,” *International workshop Aspects of Narrative in Art History at Kyoto University*, 2 December, 2013.

〔図書〕( 計 1 件 )

( 1 ) 尾崎彰宏、幸福彰、廣川暁生、深谷訓子、『カーレル・ファン・マンデル「北方画家列伝」注解』、中央公論美術出版、2014 年 2 月、全 710 頁

〔産業財産権〕  
出願状況 ( 計 件 )

名称 :  
発明者 :  
権利者 :  
種類 :  
番号 :  
出願年月日 :  
国内外の別 :

取得状況 ( 計 件 )

名称 :  
発明者 :  
権利者 :  
種類 :  
番号 :  
取得年月日 :  
国内外の別 :

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

深谷訓子 ( FUKAYA, Michiko )  
京都市立芸術大学・美術学部・准教授  
研究者番号 : 30433379

(2) 研究分担者

( )

研究者番号 :

(3) 連携研究者

( )

研究者番号 :